

東蓮寺藩誕生 400年

1623（元和 9）年に黒田長政の四男黒田高政を初代藩主として、東蓮寺藩が開かれ、1720（享保 3）年、第四代藩主黒田長清死去に伴い、直方藩は廃藩となりました。そのおよそ 100 年間で現在の直方を形作ったといえます。

直方

元禄元年、黒田長清が直方藩第四代藩主となり、4万石から5万石に加増されたのを機に、東蓮寺藩から直方藩と改名しました。中国の易经からとったとも、当時あった能方村からとったともいわれています。

古町と新町

東蓮寺藩時代に現在の古町が、直方藩時代に新町が作られました。町を広げるための切抜や町を守る大曲などは現在でも残っています。

日若踊り・三申踊り

第四代藩主黒田長清は雨乞い祈願のため、多賀神社で植木役者の踊りを奉納しました。また当時の多賀神社宮司の青山敏文は、京の踊りを参考に日若踊りを作りました。

俳諧

元禄年間には俳諧が盛んになり、直方藩でも有井浮風、諸九尼が活躍し、野見山朱鳥、阿部王樹につながる礎となりました。

長崎街道

1736（元文 1）年、直方廃藩後大庄屋庄野与右衛門は、長崎街道が直方古町を通るように変更を申し出、許可を受けました。直方が城下町から宿場町へと発展していくこととなります。

<当時を知る資料>

★直方城郭図★

元禄年間の城下町直方の絵図

★直方旧考★

直方藩士舌間宗益が描いた東蓮寺藩の歴史書

筑豊の民話 -御館山の怪鳥-

享保初年（1716）ころ、夕暮れになると御館山に一羽の怪しげな鳥が飛んできて、大木に止まり大きな声をあげて鳴いた。その声は重病人のうめき声のようで、鳴くたびに翼から火が燃え出ているようだった。殿様は直方藩随一の鉄砲の名手の高尾平四郎に命じて、撃ち落させた。その姿は鷲のようで、目は大きく、くちばしは曲がり、翼の両脇の羽が赤く、そのため火が出ているように見えた。鳥の名は、誰も知らなかった。

この鳥は本当に妖怪変化のものなのか、直方郷土研究会の牛嶋さんは、この鳥はトキではないかという説を唱えています。トキは関東から東北に生息する渡り鳥で、福岡藩の記録にトキが出てくるのは「筑前國続風土記付録」（1798 年）。そのため直方藩の人々は、トキを知らなかったのではないかと書かれています。どうしてトキが九州に渡ってくるようになったのかは、下記の資料をお読みください。

「直方郷土研究会会報 郷土直方第 48 号「直方旧考」にみる御館山の怪鳥の正体

-筑前におけるトキの出現年代- 牛嶋英俊/著 直方市立図書館所蔵

【基本情報】 ◇考古資料/遺跡 《所在地》直方市直方永満寺 《指定年》1988年3月

高取焼発祥の地である直方では、春と秋に毎年陶器まつりが開催されます。今回はそんな高取焼にまつわる文化財をご紹介します。

永満寺宅間窯跡は、「やきもの戦争」*と呼ばれる文禄・慶長の役の際に来日した朝鮮人陶工・八山(高取八蔵)によって1606年に開かれました。茶器も生産していますが、その中心は播鉢や瓶、皿などの日用雑器です。作風は素朴であり、厚く、重たい印象を受け、まだ朝鮮半島の影響が強いものでした。

高取焼は、1614年に第二の窯である内ヶ磯窯に移ります。宅間窯跡は全長16.6mと小ぶりですが、八山が故国の窯をそのままこの地で再現したような個人窯の域でしたが、内ヶ磯窯は全長46.5mと大きく、本格的な窯へと変化します。宅間窯跡は、鷹取の地で焼物が焼けるかどうかを試した試験的な窯であったと考えられます。宅間の地で成功をおさめた八山らは、その後大規模な窯の構築が可能であった内ヶ磯の地へと移って行きました。宅間窯跡は、内ヶ磯窯が成立するまでのわずか7年間という開窯ではありましたが、筑前領内における本格的な茶陶の始まりとして高取焼発展のための礎となったのです。

*やきもの戦争：秀吉が1592年～1598年にかけて朝鮮に侵略、朝鮮国から数多くの陶工たちが日本に連れてこられ、李朝陶芸技術が流入してきた。当時は、その陶工たちによって唐津・伊万里・高取などの御国焼が成立する前夜であった。

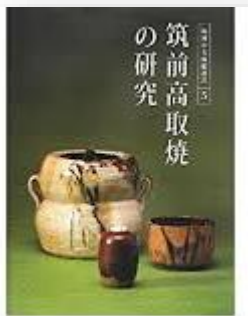
参考：「直方市バーチャルミュージアム」 <http://nogata-virtualmuseum.jp/chronology.php>
「古高取永満寺宅間窯跡」 N751 ノ

はじめの一步 ～郷土資料の紹介～

直方市立図書館にある郷土関係の本を紹介していきます。
郷土の歴史や文化に興味をもっといただききっかけになればと思っています。

『筑前高取焼の研究 福岡市美術館叢書5』

尾崎直人//著 N751 ノ



筑前福岡藩の藩窯・高取焼は、その成立の具体的経緯や背景についてあまり解明されていません。江戸時代初期という、美術文化史上きわめて高い流動性をもち豊かな可能性を秘めた時代にあって、当時の政治・文化に密接に結びついた具体的で興味深い歴史と、創業場所を転々と変えるという独自の足跡をのこす貴重な生産活動について、学術論文や専門資料を中心に収録しています。

高取焼を取り巻く歴史を学びながら、福岡市美術館の所蔵する高取焼や唐津焼について、カラー図版と解説で楽しむことのできる1冊です。

直方市立図書館 直方市山部 301-11 コミュニティのおがた内
TEL 0949-25-2240 FAX 0949-23-3902